



NPO PTPL “ともいき” 便り No.52

平成 26 年（2014 年）5 月 21 日発行

■小満（しょうまん） 5 月 21 日から 6 月 5 日までの節気

「小満」の節気に入りました。「山野が緑に満ち溢れ、麦刈りの頃」です。町を歩いていると、さわやかな風を感じます。緑のにおいをいっぱいおせた風です。5月24日(土)から25日(日)には、「東北六魂祭(とうほくろっこんさい)」が行われます。東日本大震災の復興を祈念して、東北6県の夏祭りが勢ぞろいするお祭りです。2011年の宮城県仙台市を皮切りに、2012年には岩手県盛岡市、2013年には福島県福島市の順で実施しましたが、2014年は山形県山形市で行われます。([ともいきだより]より)まだ日常の暮らしが戻らない方たちが大勢いらっしやいます。祭りから元気とパワーを!

先日、犬の散歩をしていたら、町の伝言板に、5月24日(土)に近くの公園で田植えをするので参加しましょうというチラシが貼ってありました。参加者1名200円。田んぼにそのまま入っても脱げにくい靴、着替え、タオルをもって来るようにと書かれていました。田植えの時期なんですね。東北あたりは5月中旬、九州は6月上旬ぐらいでしょうか。皆さんの地域では、いかがですか。

田植えといえば、NPO PTPLのミーティングで「田植」という歌の話題が出たことがあります。「昭和17年に国民学校の教科書『初等科音楽』三年生用に載せられた民謡調で軽快さのある曲」と「唱歌(野ばら社)」に説明がのっていました。今、私は日本の歌を二十四節気ごとに分ける作業をしています。日本の歌の歌詞には、季節を歌ったものが多いので、歌で二十四節気を楽しむこともできるのではと思ったからです。そして、「田植」という曲を見つけました。まさに、今の季節。そして、この歌を私の目の前で見事に歌ってくれたのは、理事の朝倉勇さん。私は、初めて聴きました。歌詞をご紹介します。歌える方は、歌ってみてください。

田植 (井上 赳/作詞 中山晋平/作曲)

- 1 そろた 出そろた
さなえが そろた
植えよう 植えましょ
み国のために
米はたからだ たからの草を
植えりゃ こがねの花が咲く
- 2 そろた 出そろた
植え手も そろた
植えよう 植えましょ
み国のために
ことしゃほう年 穂に穂が咲いて
みちの小草も 米がなる

お米作りに汗を流す皆さまに感謝しつつ、秋に食べる新米を心待ちにしています。そして、皆さまからの「この歌はこの節気では?」というご意見もお待ちしています。次の節気は「芒種」。「かたつむり」の歌は、この節気かもしれません。二十四節気・うた暦。完成させたいです。そして、いっしょに歌いましょう。

文：すとう あさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

■ ともいき・ともうみ雑感彼は

12年目の初めての花芽。

12年前、実生から育てたグレープフルーツの木に、やっと、やっと、ようやく花芽が出、花が咲きました。うれしさでいっぱい。小躍りです。

5年ぐらい前から柑橘類に花芽が出はじめると、グレープフルーツの花芽はまだか、まだかと探しまわる始末……。徒長した枝を切って整えたり……。脚立に乗って頭を枝の中にもぐらせ夢中で探すのです。でも花芽は見つけられませんでした。

電通を退社し、少しでも、ほんの少しでもいいから世のため、人のためになれたらイイナという気持ちで、NPO PTPL をスタートさせました。

初めて出社する朝、新鮮で香りがよく、ジューシーなグレープフルーツを食べました。あまりにおいしかったので、密かに、その種子を「ひとり立ちの記念」に鉢植えし、育て

ようと決めました。

12年たって立派なグレープフルーツの花が咲きました。今年は花も少ないのですが、きつときつと来年は花盛りになることでしょう。

NPO PTPL にも花が咲き、来年は立派に結実することを祈りつつ、これからも一生懸命、頑張る所存です。

個人会員、法人会員の皆さまのいままでの応援、支援ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

- 先日フェイスブック「ともいきぐらし」に東京メトロの節電の取り組みに関する話題をアップしました。

その話題とは、駅を出発するとすぐに加速をつけるために線路は下り坂となり、駅に到着する際の減速のために線路を上り坂にしているということです。いくつかの駅で試みをしているようですが、実際、東京メトロ丸の内線・四谷駅で確認できました。

こんな普段は気づかないところにも、日本人の知恵が活かされていると思うと何かうれしい気がします。

- 本文にもあるように、「田植え」は5月の季語でもあります。

田植にかかる労力は大変なものですから、かつては数軒の農家が互いに協力し合う「結い(ゆい)」を組んだり、早乙女(さおとめ)を雇い入れてしのいできました。

田に水縄を引いて植える正条(せいじょう)植えは明治の中ごろから普及、田植歌に合わせて植えていきます。さらに田植定規(じょうぎ)が出たことで、植え方も、後ろにしざる方法から、前に進む方法に変わりました。

機械が寸分の狂いもなく植えていく今の田植からは想像もできない重労働でした。それだけに、植えた苗が一面にそよぐ光景が、農家にとっても最高の至福の時だったようです。(ともいき暦・季語解説より)

- 「ジャパネスク」のサイトもご覧いただき、そしてご意見、ご感想をお寄せください。お待ちしております。

<http://japanesque.pw/>

■ お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル7階
電話：03-6205-7503
FAX：03-6205-7504
Email：info@plantatree.gr.jp